

31 慢性期頸髄損傷者における生活動作の獲得状況と支援期間

－機能訓練サービス利用者の現状－

自立支援局 自立訓練部機能訓練課 清水 健 市川眞由美 田中 匡 森口治奈

【はじめに】

自立支援局自立訓練部機能訓練課では、2009年より慢性期の頸髄損傷者を主な対象とした機能訓練サービスの提供を開始し、現在までに78名の利用者を受け入れている。今回は、当課のサービスを利用した頸髄損傷者における代表的な生活動作の獲得状況と、獲得に要した支援期間について調査したので、結果を報告する。

【方法】

対象は、2009年4月から2015年4月の間に当課でサービスの利用を開始した頸髄損傷者のうち、利用開始時年齢が50歳未満であり、Zancolliの上肢機能分類（以下、Zancolli分類）で両側上肢ともC6AからC6BⅡに該当し（左右差が1レベル以下）、ASIAの機能障害尺度でAまたはBと判定された20名（年齢； 26.1 ± 12.5 歳，男性；18名）とした。調査は、対象者の基本属性をケース記録から収集し、障害の特性および動作の獲得に関する情報をPTおよびOTの評価結果から収集した。調査した動作項目は、ベッド-車いす間の移乗（以下、ベッド移乗）、排便、シャワー浴、および自動車運転席-車いす間の移乗（以下、自動車移乗）であり、整備された環境で介助なく安定して実施可能となることを動作獲得とみなした。

【結果】

対象の内訳は、Zancolli分類ではC6Aが3名、C6BⅠが7名、C6BⅡが10名（左右差のある者は機能不良側で表記）、ASIA機能障害尺度ではAが15名、Bが5名であった。日常生活動作の項目別の集計では、ベッド移乗、排便はほぼ全対象者が獲得していた。他の動作ではZancolli分類によって獲得状況に差があり、シャワー浴はC6Aが67%、他のレベルはほぼ全対象者が獲得しており、自動車移乗はC6Aが33%、C6BⅠが86%、C6BⅡは全対象者がそれぞれ獲得していた。全対象者における動作獲得に要した支援期間は、ベッド移乗が 2.5 ± 3.1 ヶ月、排便が 6.6 ± 3.9 ヶ月、シャワー浴が 10.5 ± 6.9 ヶ月、自動車移乗が 7.8 ± 6.5 ヶ月であった。

【考察】

慢性期頸髄損傷者への機能訓練サービスを提供する伊東・別府重度障害者センターと当課の3施設による共同調査の結果と、今回の当課のみでの調査結果を比較すると、生活動作の獲得状況に大きな差はなかったが、動作獲得に要する支援期間は当課が短い傾向にあった。各施設が提供するサービスの内容には、特に違いはないと考えられる。よって、この支援期間の差は、当センター病院の入院患者が当課へと円滑に移行されることで、リハビリテーション効果が高く維持されている点が大きな要因であると推測される。今後は、この好影響について実証を試みるとともに、長期になりがちな頸髄損傷者の支援期間を短縮化するための方策について、サービスの質や目標設定の妥当性などもふくめ、広い視野で検討していくことが重要な課題であると考えられる。